



○子どもたちの体づくり

次代を担う子どもたちが健やかな体をつくるためには、まず、子どもたちがさまざまな競技に興味や関心を持ち、夢を育むことが重要となりますので、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、市内のスポーツ関係団体などと連携を図りながら、オリンピック選手をはじめとした関係者を招き、講演や実技指導などをしていただく機会を創出していきます。



▲平成28年5月に元オリンピック選手・千葉真子さんを招いて開催したスポーツ講演会

誇りと愛着をもてるまち

市民が郷土を愛し、まちをより良くしていくため、市史の編さんや市民憲章の推進などにより、まちづくりへの参画意識の醸成を図る

市民一人ひとりが、登別市に誇りと愛着をもって暮らすためには、当

市に暮らす人々が『ふるさと のほりべつ』の歴史を知り、優れた景観や街並みを愛し、ふるさとがもつと住み良いまちとなるよう、積極的にまちづくりに参加するという意識の醸成が必要です。

そして今、懸命にまちづくりに取り組んでいる市民の皆さんへの心からの感謝を忘れることなく、人々の想いを受け継いでくれる次世代のリーダー、まちづくりを担う『市民』を育成しなければなりません。

まちづくりを進めるにあたっては、さらなる発展へとつながる『きっかけ』をしっかりと活用できるように、東京オリンピック・パラリンピックの開催、北海道新幹線開業やインバウンドの増加、民族共生象徴空間の設置、市制施行50周年、北海道命名150年など、さまざまな節目をまちづくりの加速剤としながら、途切れることのないまちづくりに取り組んでいきます。

○市史の編さん

まちの歴史については、現在、多くの方に『ふるさと のほりべつ』の歩みを知っていただき、後世に残していくことを目的として、100を超える個人や事業者、団体などのご協力のもと、多くの有形無形の資料を収集しているところであり、平成29

年度においては、市史編さんだよりを発行し、取り組み状況を広く周知してまいります。



▲市史編さんの方針などについて調査審議を行う『登別市史編さん委員会』

○市民憲章の推進

平成30年9月20日に市民憲章制定50周年という大きな節目を迎えることから、登別市市民憲章推進協議会と連携を図り、記念誌の発行や記念式典の開催などに向けた協議を進めるとともに、各団体が主体的に取り組む活動が市民憲章の描くまちづくりを实践するものとなるよう働きかけてまいります。



▲地区懇談会で毎年、市民や市長、市職員で行っている市民憲章唱和

私さまざまな事業を展開し、目指すまちの未来は、『住みつづけたい、住んでみたいと思える魅力あるまち』です。

そして、市民一人ひとりが、全ての人を温かく迎え入れることができ、豊かな心を有し、自らが生き生きと暮らす姿を示すことにより、当市を訪れた皆さんが、まちに魅力を感じる事ができるまち、それが私の目指す『ふるさと のほりべつ』です。

その原動力となるのは、このまちを愛する心であり、まちの未来を自ら描く想いであり、想いを実行するという強い信念です。

2020年には、市民の記憶に残る市制施行50周年となるよう、市民の皆さんと議論を開始します。

私たちの目の前には、まちの将来へと続く扉がいくつもあり、限りない可能性へ挑戦し続ける心を失わない限り、常に開かれていると私は強く信じています。

市民とまちの将来について共に考え、明るい未来への扉を開くことができるよう、まちを取り巻く環境をしっかりと捉え、対話を重ねながら市民の皆さんと共にこれからも歩んでいきますので、議員の皆さん、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。